

高松塚・キトラ古墳石槨壁画の謎 — 葬送空間に残された記号 —

グローバル ヒストリーの視座から

話のあらまし

1972年3月、偶然の機会から高松塚が発掘され、わが国初の四神図が発見された。その10年後の1983年、キトラ古墳のファイバースコープによる調査で2例目となる四神図が見つかり、飛鳥文化研究のブームとなった。爾来、すでに30年が過ぎ、壁画の保存整備は完了、研究は尽くされたように見える。しかし、青龍、白虎、朱雀、玄武という四神図の画題に関しては、中国伝来の方角の守護神とされた以上に明らかにされていないようだ。

四神とは何か、これらの想像上の霊獣がどのように生まれ、何故、それが色分けされて四方の守護神とされたか、中国の古代思想からその淵源を探るのがこの度の主旨である。

そもそも人は何故、絵を描き始めたのだろうか。文明の始まりとして、火や道具の利用等が説明される。それらは生存に必要な利便性に対する具体的考案、実用的知恵なのであるが、目に見えないものを想像するという抽象的、精神的思考は何時、どのように始まったのだろうか。恐らく、それは自然界や人間生活を支配し、脅威を与える見えないものへの畏怖や死生観から始まったに違いない。そしてその心情の表出として、絵像が描かれたのではあるまいか。この心に浮かぶものを映し、心象を表現することを、形を写す「写生」と対比して、「写意」と称されるが、この写意画の誕生が抽象的思考の始まりであり、人間形成の重要な画期と言えるだろうと思う。

現在、われわれが目にするのできる古代絵像は世界各地にあり、多くの場合、祭祀用とされ

る器物上に刻まれたものの他、その殆どが墳墓の中に記され、或いは人里遠く離れた遙か高山の岩肌、隠れた洞窟内の奥深くに見出される。これらの写意画や紋様についてさまざまな解釈が試みられているが、その多くは葬送に関わる呪術的表象と見なされている。ここでは、広く「古代に残された記号」と捉えたい。

この記号とは「一定の事象や心象を視覚化して他と識別する標識を与える」事であり、独自性を表現するために表わされたものとする。辞書の言葉を借りれば、アイデンティティ、人格における存在証明、又は同一性という意味を含めて考えたい。更に、古代の多様な絵象を葬送空間に描かれた精神的思考の始まりとして総括し、これら「葬送空間に記された記号」の背景にあるものを各種の絵像スライドを見ながら推考してみたい。

今回、お話しするあらまきは以下の通りである。

- I. 世界各地に残された古代壁画
- II. 高松塚、キトラ古墳石槨壁画
- III. 朝鮮半島の墓室絵画
- IV. 中国の墓室壁画
- V. 四神図とは
- VI. 結び：被葬者は誰か

結びとして、今までに入手できた画像データの考察から 高松塚、キトラ古墳の被葬者、絵師がどのような人物か推定してみる。

I. 世界各地に残された古代壁画

I-1 世界各地の洞窟画・岩絵：アルタミラ，ラスコー等欧州各地のもの。洞窟は特に葬送空間とされてはいないが，暗黒の空間は冥界への入口とされたのではないだろうか。長年月間の地殻変動の影響もあり，空間環境が変化した可能性もある。顔料等から描かれた年代を推定するのは難しいとされる。身近の動物群や生活環境の描写など物語を有する具体的記憶の表現が主であり，心意を伝える絵文字として児童画との類似が指摘されている。

I-2 中国雲南省の岩絵：人里を遠く離れた高山の岸壁に描かれており，「天葬」の空間と思われる。

I-3 エジプトのヒエログリフ：よく知られたもので単に例証として，とりあげる。

I-4 日本の装飾古墳紋様：九州中，北部，東北地方に多く見られ，6百数十例ある。具象的，幾何学的紋様で構成される多彩な絵象で，古墳時代の終焉と共に消滅したとされるが，このような精神文化が葬送形式の変化で消えるであろうか。

II. 高松塚，キトラ古墳石槨壁画

四神図，星宿図が今回の主題である。スライドで絵の観察をする。

四神図 — わが国では2例のみ，単純な相違点がみられる。

星宿図 — 天文，暦法の基本図であるが2例は異なった伝承によっていると思われる。

人物図 — 高松塚は男子，女子群像，キトラ古墳は十二支像と異なるため，今回の比較考察対象外とした。

III. 朝鮮半島墓室壁画

主に高句麗地域における半地下式墓室に描かれたもの。高松塚，キトラ古墳の図柄は高句麗壁画の影響が明らかとされているが，事実はどうか確かめたい。

中国文化の流入とされるので次に中国の始原を探ってみる

IV. 中国墓室壁画

墓室壁画の始原は秦漢時代に遡り，多様に発掘されている。墓室は地下式ですべて地中深くに造られ，地上からは位置は不明である。墓室壁面全面に被葬者の生前の隆盛が描かれているようだ。四神図，星宿図に的を絞って探ってみるが……

V. 四神とは

その淵源として中国古代の宇宙観，五行説，五霊獣等の誕生を簡略に紹介し，四神それぞれの始原を中国神話，伝承を基に探ってみる。

VI. 結び：高松塚，キトラ古墳 石室壁画の考察

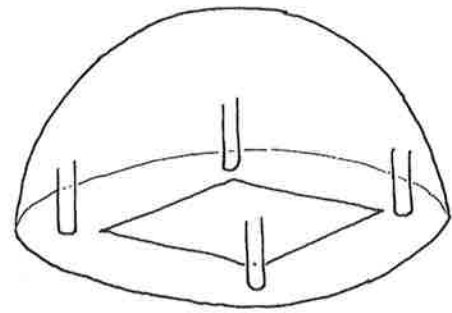
- ・石槨は正しく真北を指しているようだ。天井星宿図の正確な方向を定めていると思われる。
- ・中国伝来の天文暦法に従った星宿図が主であり，被葬者は天武朝に仕えた占星術師ではないか。
- ・被葬者の像は描かれず，「天命に関わるものは名を秘す」という匿名原理を守っている。
- ・四神図は単に方角を示す記号（ロゴ）であり，基本概念を基にした画師の作画であろう。

[参考資料]

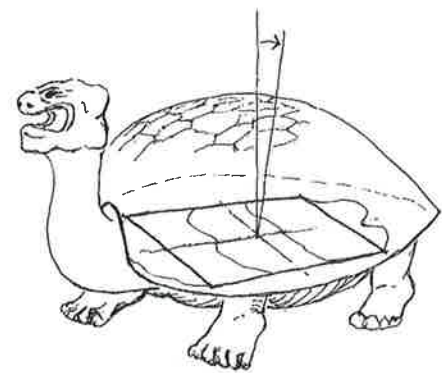


陰陽五行説の概念図

- 五行 : 木 火 土 金 水
- 五方 : 東 西 中央 南 北
- 五色 : 青 白 黄 赤 黒
- 五(四)霊獣 : 龍 虎 (麒麟) 鳥 亀



古代中国の宇宙観 天円地方概念図



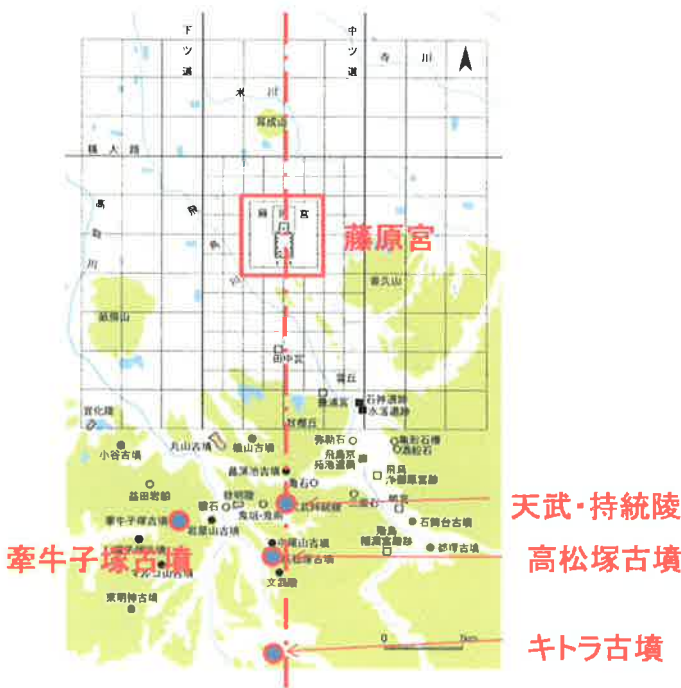
天円地方を体現する亀

女媧补天：或る時、天と地が争い^天を^天支える支柱か折れた。女媧は大亀の足を取って支柱とした。亀は後ろ脚が短いので、天が傾くことになってしまった。 地軸の傾きの説明

- 龍 : 東 青 青龍
- 虎 : 西 白 白虎
- 鳥 : 南 赤 朱鳥
- 亀 : 北 玄 玄武
- 麒麟 : 中央 黄

星宿 — 四象二十八宿

- 東方七宿 : 角, 亢, 氏, 房, 心, 尾, 箕
- 西方七宿 : 奎, 类, 胃, 昂, 毕, 觜, 参
- 南方七宿 : 井, 贵, 柳, 星, 张, 翼, 轸
- 北方七宿 : 斗, 牛, 女, 虚, 危, 室, 壁
- 天界 : 北極



藤原京と天皇陵位置図